

## **巻末資料 3**

# **モデル事業実施状況**

**北海道薬剤師会**

**滋賀県薬剤師会**

**熊本県薬剤師会**



# 次世代薬剤師指導者研修会をもとにした 北海道版「次世代薬剤師指導者研修会」等の企画・実施について

一般社団法人 北海道薬剤師会

## 1. 目的

公益社団法人日本薬剤師会では平成 29 年度から「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」に基づく「次世代薬剤師指導者研修会」（以下日薬版研修会）を毎年開催しているが、（一社）北海道薬剤師会では、（一社）北海道病院薬剤師会との共催で、日薬版研修会の開催趣旨に準じて北海道版・次世代薬剤師指導者研修会（以下北海道版研修会）を伝達講習という形で毎年開催している。北海道版研修会では、前年度の日薬版研修会に参加した 3 名の薬剤師が運営WGとして中心となり、日薬版研修会の内容を踏襲した形で研修会の企画・運営を行った。参加者は全道 18 支部より 50 歳未満で各地域の次世代を担う薬局薬剤師 1 名、病院薬剤師 1 名（札幌支部についてはそれぞれ 10 名）を地域薬剤師会や病院薬剤師会からの推薦により選出した。北海道版研修会の目標は日薬版研修会の伝達を実施し、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上を目指すとともに、日常業務の中では、顔を合わせる機会の少ない各地域の薬局薬剤師、病院薬剤師が同じ研修会に参加することで、関係性をより強化し、更には参加者自身が研修内容を各支部に持ち帰り、地域薬剤師会で同様の研修会を企画・開催することを最終目標とした。また、次年度開催の日薬版研修会の参加者は、本年度に北海道版研修会に参加した薬剤師から薬局薬剤師 2 名、病院薬剤師 1 名を選出して参加者とした。本研修会では、参加者に対して研修前のアンケート（プレアンケート）と研修後のアンケート（ポストアンケート）により研修効果を評価した。また、これまで研修を終えた参加者のその後の行動変容から研修効果を評価した報告が少ないことから、令和元年度からは、本研修会参加者に対して研修 6 ヶ月後に研修内容の実践状況をアンケート調査し、行動変容から研修効果の評価を行った。

## 2. 実施状況

（一社）北海道薬剤師会では平成 30 年度より、これまで 4 回に渡り北海道版研修会を開催し、50 歳未満で次世代を担う 224 名の薬剤師（薬局薬剤師 117 名、病院薬剤師 107 名）が参加した。開催内容の概要は下記のとおりである。

### （1）平成 30 年度次世代薬剤師指導者研修会

#### ○日時：

平成 30 年 11 月 10 日（土）、11 日（日）

#### ○会場：

TKP ガーデンシティ札幌駅前

#### ○受講者：

56 名（薬局薬剤師 34 名、病院薬剤師 22 名）

#### ○テーマ：

「薬剤師を取り巻く社会情勢と医療等提供体制における役割」

「ポリファーマシー対策に向けて」

○研修内容：

- ①事例紹介「やくやくカフェ@とかちのご紹介」
- ②講義「薬剤師をとりまく社会的情勢について」
- ③講義「保険薬局薬剤師業務の現状について」
- ④講義「病院薬剤師業務の現状について」
- ⑤WS「地域医療提供体制構築に向けて、薬・薬連携はどうあるべきか～地域の薬薬連携の現状と理想～」 \*別添1 参照
- ⑥講義「ポリファーマシーの現状について」
- ⑦WS「ポリファーマシーを考える」 \*別添2 参照



平成 30 年度次世代薬剤師指導者研修会の様子

(2) 令和元年度次世代薬剤師指導者研修会

○日時：

令和元年 11 月 23 日（土）、24 日（日）

○会場：

TKP ガーデンシティ札幌駅前

○受講者：

56 名（薬局薬剤師 28 名、病院薬剤師 28 名）

○テーマ：

「薬剤師を取り巻く社会情勢と医療等提供体制における役割」

「災害医療において、薬薬連携はどうあるべきか考える」

「エビデンス化に向けて研究計画を作成する重要性、手法を考える」

「高齢者薬物療法における、これからの薬薬連携を考える」

○研修内容：

- ①講義「保険薬局薬剤師業務の現状を知ろう」
- ②講義「病院薬剤師業務の現状を知ろう」
- ③事例紹介「北空知支部における伝達研修会のご紹介」
- ④講義「北海道胆振東部地震の全道薬局の対応等実態調査結果報告」

- ⑤WS「災害医療から薬薬連携について考える」 \*別添3参照
- ⑥講義「臨床研究の必要性とその進め方」
- ⑦講義「研究計画書作成と倫理審査」
- ⑧講義「適正な高齢者薬物療法の現状について」
- ⑨WS「高齢者薬物療法における、これからの薬薬連携を考える」 \*別添4参照

(3) 令和2年度次世代薬剤師指導者研修会

- 日時：
  - 令和3年2月6日(日)
- 会場：
  - Z o o mによるオンライン研修
- 受講者：
  - 57名(薬局薬剤師28名、病院薬剤師29名)
- テーマ：
  - 「薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導」
  - 「がんの薬物療法における薬剤師のかかわり方」
  - 「糖尿病・認知症の薬物療法における薬剤師のかかわり方」
- 研修内容：
  - ①講義「アフターコロナに向けた薬局薬剤師を取り巻く社会的状況」
  - ②講義「アフターコロナに向けた病院薬剤師を取り巻く社会的状況」
  - ③WS「COVID-19における職場での対応」
  - ④講義「抗がん剤の基礎知識」
  - ⑤講義「薬局における副作用マネジメント」
  - ⑥WS「継続的な薬学管理～大腸癌の治療と副作用への薬学的アプローチ～」 \*別添5参照
  - ⑦講義「糖尿病患者の薬物治療管理を継続的に行うために必要な視点と能力」
  - ⑧講義「認知症患者の薬物治療管理を継続的に行うために必要な視点と能力」
  - ⑨WS「糖尿病・認知症患者の継続的な薬学管理」 \*別添6参照

(4) 令和3年度次世代薬剤師指導者研修会

- 日時：
  - 令和4年1月15日(土)
- 会場：
  - Z o o mによるオンライン研修
- 受講者：
  - 55名(薬局薬剤師27名、病院薬剤師28名)
- テーマ：
  - 「成育医療基本法の成立を受けて ～薬剤師の新たな役割～」
  - 「医療倫理を踏まえたリーダーシップ ～多様化する社会において～」
- 研修内容：

- ①講義「成育医療基本法の成立を受けて～薬剤師の新たな役割～」
- ②WS「成育医療における薬剤師の役割について」 \*別添7参照
- ③講義「医療倫理を踏まえたリーダーシップ ～多様化する社会において～」
- ④WS「医療倫理を踏まえたリーダーシップについて」 \*別添8参照

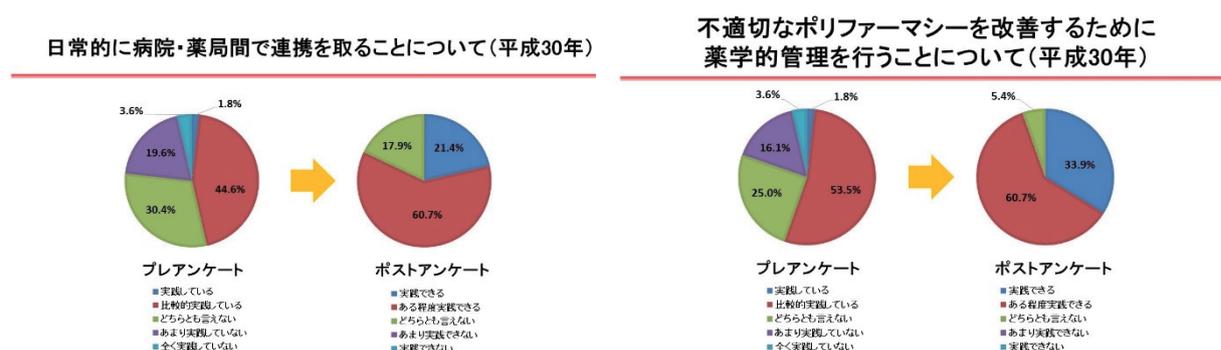
### 3. アンケート結果

北海道版研修会では、参加者に対して研修前のプレアンケートと研修後のポストアンケートにより研修効果を評価し、平成31年度からはその後の行動変容による研修効果を評価するため、参加者に対して研修6ヶ月後に研修内容の実践状況を調査した。

#### (1) 平成30年度次世代薬剤師指導者研修会

「日常的に病院・薬局間で連携を取ることにについて」は、研修会前後で「実践できる」「ある程度実践できる」という回答が46.4%→82.1%と大幅に増加し、学習効果が得られたことが確認できた。

また、「不適切なポリファーマシーを改善するために薬学的管理を行うことにについて」も、研修会前後で「実践できる」「ある程度実践できる」という回答が55.3%→94.6%と大幅に増加し、学習効果が得られたことが確認できた。



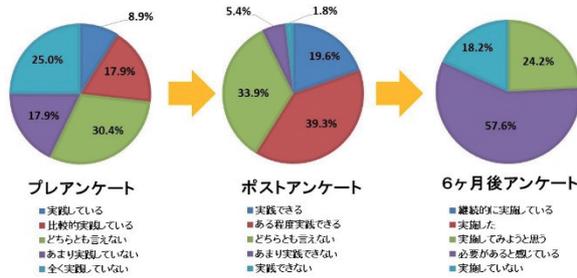
#### (2) 令和元年度次世代薬剤師指導者研修会

「エビデンス化に向けた研究計画作成について」は、研修会前後で「実践できる」「ある程度実践できる」という回答が26.8%→58.9%と増加したものの、「どちらともいえない」が約3割で変化がなかった。要因として、本テーマについては講義形式のみでWSを行わなかったこともあり、明確に回答できるほどの学習効果が十分に得られなかったことが一因と考えられる。一方、6ヶ月後のアンケートでは「継続的に実施している」「実施した」と回答した参加者は0名で、行動変容から研修効果を確認することまではできなかった。要因としては研修終了から時間が6ヶ月しか経過しておらず、研究計画作成にまでには至っていないことが一因と考えられた。しかし、「実践してみようと思う」「必要があると感じている」が合わせて8割を超えており、「準備期」または「関心期」へ移行していると考えられ、行動変容までは至らなかったものの意識の変化は見られたと推察される。

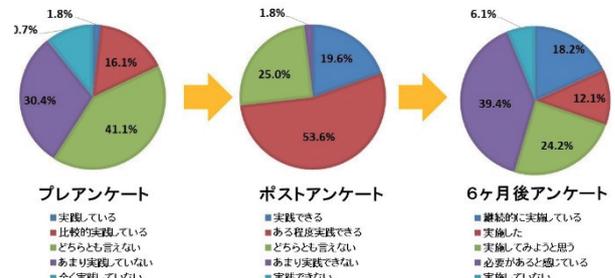
「災害発生時における薬薬連携について」は、研修会前後で「実践できる」「ある程度実践できる」という回答が17.9%→73.2%と大幅に増加し、学習効果が得られたことが確認された。一方、6ヶ月後のアンケートでは実践割合はポストアンケートからは減少したが、研修前と比べると17.9%（実

践している＋比較的实践している) から 30.3% (継続的に実践している＋実践した) に向上し、実践段階まで移行できていることが確認された。

エビデンス化に向けた研究計画作成(令和元年)



災害発生時における薬業連携について(令和元年)

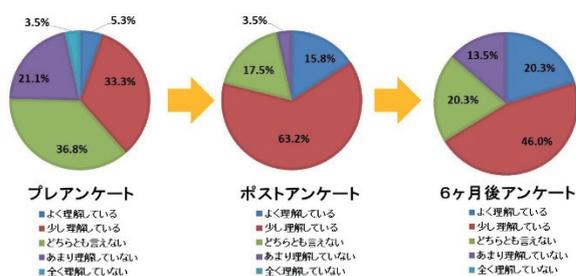


### (3) 令和2年度次世代薬剤師指導者研修会

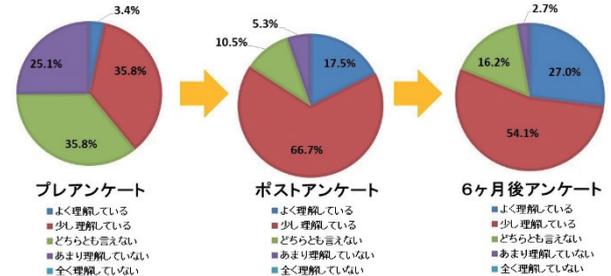
「薬機法改正の内容に関する理解度」については、研修会前後で「よく理解している」「少し理解している」という回答が 38.6%→79.0%と大幅に増加した。また、6か月後のアンケートでは、「よく理解している」「少し理解している」という回答は 79.0%→66.3%と減少したものの、「よく理解している」という回答が 15.8%→20.3%と増加しており、研修後の日常業務を通じて、薬機法改正に関する理解度がより深まってきていることが示唆され、6 か月経過後も高い水準で研修効果が維持されていることが確認された。

「がんの薬物療法における薬剤師のかかわり方に関する理解度」については研修会前後で「よく理解している」「少し理解している」という回答が 39.2%→84.2%と大幅に増加した。また、6か月後のアンケートでは、「よく理解している」「少し理解している」という回答は 84.2%→81.1%と、こちらについても6か月経過後も高い水準で研修効果が維持されていることが確認された。

薬機法改正の内容に関する理解度(令和2年)



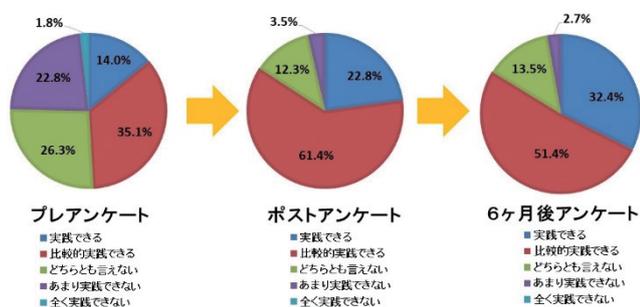
がんの薬物療法における薬剤師のかかわり方に関する理解度(令和2年)



また、令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため、初のオンライン研修会となったため、「Zoomなどのオンライン研修会の参加・活用」についてもアンケート調査を実施したが、研修終了後で「実践できる」「比較的实践できる」という回答が 49.1%→84.2%と増加しており、初めはオンライン研修に慣れていなかった参加者も、本研修を通じてオンライン研修を活用できるようになったことが確認された。また、6か月後アンケートでは、「実践できる」「比較的实践できる」という回答は 84.2%→83.8%と、6か月経過後も高い水準で研修効果が維持されていることが確

認められるとともに「よく理解している」という回答が22.8%→32.4%と増加しており、研修後の日常業務を通じてオンライン研修に関する理解度がより一層深まってきていることが示唆された。

### Zoomなどのオンライン研修会の参加・活用（令和2年）



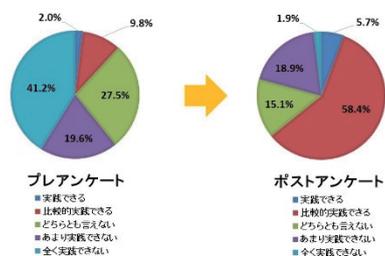
#### （4）令和3年度次世代薬剤師指導者研修会

「成育医療における薬剤師の役割に関する実践度」は、研修会前後で「実践できる」「比較的实践できる」という回答が9.8%→64.1%と大幅に増加し、学習効果が得られたことが確認できた。

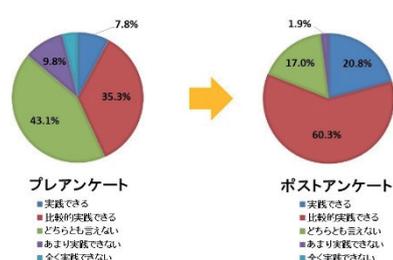
「薬剤師が心得べき倫理に関する実践度」についても、研修会前後で「実践できる」「比較的实践できる」という回答が43.1%→81.1%と大幅に増加し、学習効果が得られたことが確認できた。

なお、令和3年度研修についても6か月後のアンケートを2022年7月に実施する予定である。

#### 成育医療における薬剤師の役割に関する実践度（令和3年）



#### 薬剤師が心得べき倫理に関する実践度（令和3年）

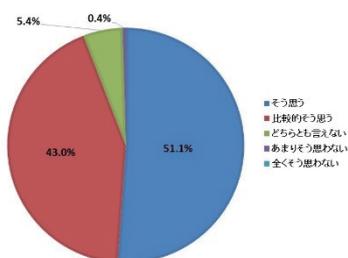


#### （5）全体

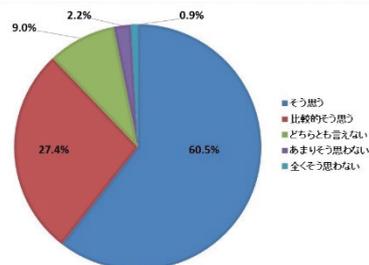
過去4年間の共通項目として研修会終了後に「本研修は日頃の業務に活かそうですか？」とのアンケートを実施したが、94.1%の参加者が「そう思う」「比較的そう思う」と回答しており、本研修が薬局薬剤師、病院薬剤師を問わず日常業務に役立つことが確認された。

また、同様に共通項目として「本研修は顔の見える関係性づくりに有効な手段だと思いますか？」とのアンケートを実施したが、Zoom開催によりその割合は少し低下したものの、87.9%の参加者が「そう思う」「比較的そう思う」と回答しており、本研修がそれぞれの地域において薬局薬剤師と病院薬剤師が顔の見える関係づくりを構築する際に有効であることが確認された。

### 本研修は日頃の業務に活かそうですか

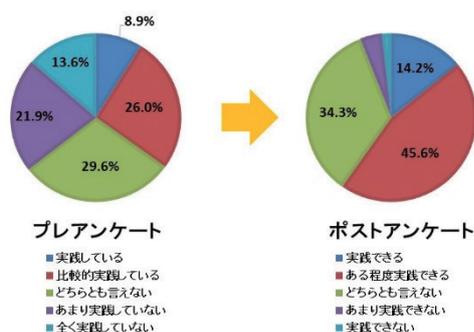


### 本研修は薬局薬剤師・病院薬剤師の顔の見える関係性づくりに有効な手段だと思いますか？



一方、「地域での伝達講習会の企画」についても共通項目として研修会前後にアンケートを実施したが、「実践している（できる）」「比較的实践している（ある程度実践できる）」が34.9%→62.8%と増加したものの、研修後においても「どちらともいえない」が34.3%を占めた。その要因としては講習会を開催することの必要性は理解したものの、参加対象の年代を考えた場合、自身の判断で「実践できる」とまで回答することが難しかったものと推察された。

### 地域での伝達講習会の企画における実践度



#### 4. 今後の課題

過去4年間における北海道版研修会の開催により、全道から50歳未満で各地域の次世代を担う多くの薬局薬剤師、病院薬剤師が参加したが、どの研修テーマにおいても、研修前後で理解度や実践度が概ね上昇し、研修会開催6か月後の調査においても多くの項目で研修効果が維持されていたことから、本研修会が薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に効果があることが確認できた。

また、本研修会独自の目標としていた各地域の薬局薬剤師、病院薬剤師の関係性強化、いわゆる薬薬連携強化についても、研修会を通じて高い効果があることが確認できたが、令和2年度からオンライン研修へと移行したことにより、その効果が低くなってきていることも示唆されており、新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、可能な限り対面での開催を模索していくことも重要であると思われた。

一方、「地域での伝達講習会の企画」については、研修会による効果はまだ十分ではないが、本研修会に参加した北空知支部の薬局・病院薬剤師が共同で、地域薬剤師会の協力を得て、33名の薬局・病院薬剤師が参加した伝達講習会を企画・開催し、さらには、その際に実施したアンケート結果が好評

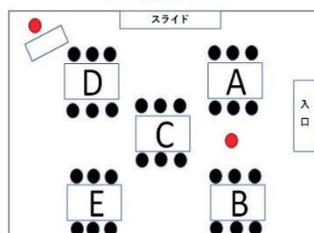
であったことから、薬局・病院薬剤師の顔の見える関係づくり構築のため「やくやくカフェ」の開催にまで至った事例などもあり、今後はこのような成功事例を共有しながら、各地域薬剤師会でも同様の研修会が開催できるように積極的に取り組んでいきたい。



伝達講習



グループ討論



グループ発表

北空知支部における次世代薬剤師指導者に関する伝達講習会の様子

令和3年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業  
(厚生労働省令和3年度薬剤師生涯教育推進事業)  
モデル事業協力依頼に係る報告書

一般社団法人滋賀県薬剤師会

【はじめに】

日本薬剤師会は、平成31年3月「薬剤師生涯教育推進事業」の実施法人として、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持向上を目的として「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」を計画し、「薬剤師のかかりつけ機能の強化のための研修シラバス」を作成し、その内容に基づいた将来の地域の指導的立場を担う若い世代の育成のための指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）を実施した。その中で、都道府県薬剤師会における研修は、指導者研修会の伝達講習を意図するものではなく、シラバスを活用して地域のリソース（人材等）を活用し、地域医療の実践に繋がる研修を数年間かけて企画・実施することを趣旨としている。

一般社団法人滋賀県薬剤師会（以下「本会」という。）は、次世代薬剤師指導者研修会参加の次世代の指導的立場を担う世代と、本会の事業運営を担う役員が一体となり2025年に向け、シラバス及び指導者研修会の成果を活用し、地域に応じた研修会を実施するとともに研修を通して地域医療の質の向上に取り組んでいる。

【事業の目的】

本会では、本事業実現のための研修シラバスWGを設置し、薬局ビジョン実現のための目指す姿である地域医療の質向上（健康状態、満足度、経済性の改善）に向けて、目的を「薬剤師のかかりつけ機能強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上」とした。

【実施内容】

事業の目的実現のため、以下の4つの事業を中心に実施することとした。

- ① 研修シラバス33項目に関連する研修を2025年までに実施できるようにスケジュール
- ② シラバス33項目に関連する研修会の企画・実施
- ③ 本会の研修を体系化し、本会事業の論文化への取り組みに向けた環境整備を進めるとともに、本会主導の研究を実施
- ④ 次世代の指導的立場を担う薬剤師の育成

【実施方法】

- ① 研修シラバス33項目に関連する研修を2025年までに実施できるようにスケジュール
  - ・年に4回から6回程度、研修シラバスWGを開催し、研修シラバス33項目の到達状況を把握し、2025年度までに33項目に関する研修会を実施するべくスケジュールを組み立てた。
  - ・令和4年2月末現在18項目に関する研修会を実施した。また、4項目においては実施に向けて検討中である。（別添1）
  - ・スケジュール作成に当たっては、研修実施計画者となる本会担当委員会及び各地域薬剤師会に依頼し

た。また、研修会実施においては、「研修実施計画書」（別添 2）を提出いただき、本会全体の薬剤師生涯教育としての環境整備を整えるものとした。

- ・研修実施計画者は、JPALS へ繋げる体制整備として「研修実施計画書」（別添 2）に薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード（PS）の到達目標を記載することとし、研修会実施時に受講者に配付する「JPALS 実践記録シート」（別添 3）に該当する PS を反映させた。

## ② シラバス 33 項目に関連する研修会の企画・実施

- ・別添 4 の通り、令和 2 年 10 月 4 日の「医療倫理とこれからの薬剤師」を第 1 回目とし、令和 4 年 2 月末までに 16 回の研修会を実施した。
- ・研修会実施に当たっては、今までの薬物療法の学習が、病態生理の解説とその疾患の医薬品の使用方法や発現しやすい副作用という医師の視点によるものが多かった背景を踏まえ、各疾病等に関する知識を踏まえた上で、薬剤師自身の視点で、疾病特性に基づく薬学的管理・指導の方法を探る学習を自ら進めていくものであるということに重点を置くものとした。
- ・また、薬局ビジョンにおいて、かかりつけ薬剤師・薬局の今後の姿、かかりつけ薬剤師・薬局が持つべき機能として、かかりつけ薬剤師としての役割を発揮し、薬剤師が、対人業務に関する専門性やコミュニケーション能力を向上させ、かかりつけ薬剤師としての役割を果たせるよう、医薬関係団体や学会等が連携を取りながら、必要な研修の機会を積極的に提供することが求められており、病院薬剤師や多職種との連携した研修会等、次に繋いでいく研修会の実施を検討するものとする。

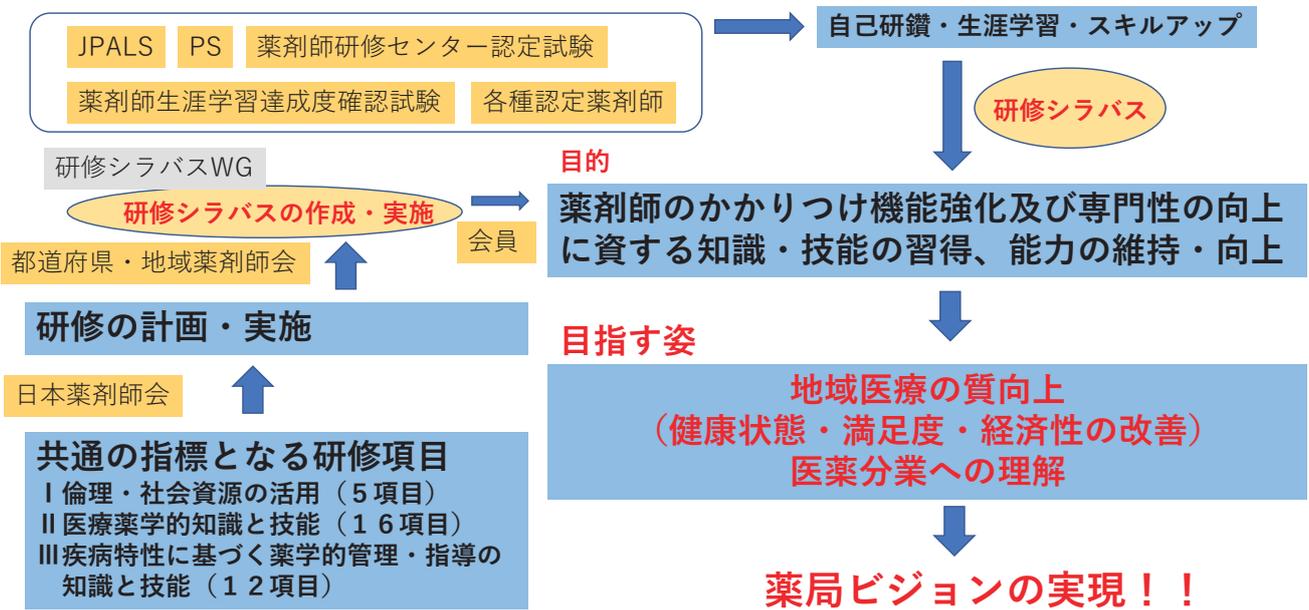
## ③ 本会の研修を体系化し、本会事業の論文化への取り組みに向けた環境整備を実施し、本会主導の研究を実施

- ・研修シラバス 33 項目の中で、I-5 エビデンスの創出、II-15 統計データの理解と活用に該当する研修会として、研究倫理研修会を実施し、併せて本会主導の臨床研究を開始することとした。
- ・「患者のための薬局ビジョン」実現イメージ図の中でも、薬剤師の資質向上としての「研究活動」が挙げられており、薬剤師のかかりつけ機能強化、専門性の向上において対物から対人業務への評価においてエビデンスによる裏付けが必須となってくる中で、研究するきっかけ作りとして、実際に研究に参加していただき、研究の一連の流れを体感していただくものである。
- ・当該研修計画書および研究の周知チラシ（別添 5）を添付する。

## ④ 次世代の指導的立場を担う薬剤師の育成

- ・研修シラバス WG で主催する研修会においては、次世代の薬剤師が主担当となって研修会を企画運営することとした。研修会実施に当たっては定期的に WG を開催し、本会役員と次世代が意見交換を密に行い実施している。今後の取組方策としては、次世代薬剤師が実際に企画運営することで、研修会企画・運営のノウハウを身に付け、将来の薬剤師の資質の育成に寄与することを期待するものである。

## 薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業



## 滋賀県薬剤師会 研修シラバスWG

今後の事業展開（都道府県薬剤師会等における研修機会の充実）

- ・日本薬剤師会は「薬剤師生涯教育推進事業」の実施法人として、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持向上を目的として「薬局ビジョンの実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」を計画・実施した
- ・「薬剤師のかかりつけ機能の強化のための研修シラバス」を作成し、その内容に基づいた将来の地域の指導的立場を担う若い世代の育成のための指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）を実施した
- ・都道府県薬剤師会における研修は、指導者研修会の伝達講習を意図するものではなく、シラバスを活用して地域のリソース（人材等）を活用し、地域医療の実践に繋がる研修を数年間かけて企画・実施することを趣旨とする
- ・次世代薬剤師指導者研修会参加の次世代の指導的立場を担う若い世代と、現在の県薬剤師会の事業運営を担う役員が一体となって2025年に向け複数年をかけ、シラバス及び指導者研修会の成果を活用して地域に応じた研修の実施し、研修を通して地域医療の質の向上が図られるように取り組みを実施

## 滋賀県薬剤師会 研修シラバスWGの設置

- ①研修シラバス33項目に関連する研修をを2025年までに実施できるようにスケジューリング
- ②シラバス33項目に関連する研修会の企画・実施
- ③滋賀県の研修を体系化し、県事業の論文化への取り組みに向けた環境整備を実施「アウトカム滋賀！」
- ③次世代の指導的立場を担う薬剤師の育成

## 別添 1

研修シラバス33項目到達状況（令和4年2月現在）			
<b>I・倫理・社会資源の活用</b>			
I-1	かかりつけ薬剤師の倫理	○	医療倫理とこれからの薬剤師
I-2	患者安全	○	医療安全研修会
I-3	医療・福祉の仕組み	○	調剤報酬適正化研修会
I-4	カウンセリングスキル		
I-5	エビデンスの創出	○	研究倫理研修会
<b>II・医療薬学的知識と技能</b>			
II-1	薬理学		
II-2	製剤学		
II-3	薬物動態学・薬力学		
II-4	小児、高齢者、妊婦・授乳婦	予定	フレイル研修会
II-5	検査値の把握	○	腎臓病を意識した薬学的ケアとは
II-6	薬学的観察・評価	○	腎臓病を意識した薬学的ケアとは
II-7	薬物療法の提案と実践		
II-8	副作用対策	○	医療安全研修会
II-9	ハイリスク薬		
II-10	生薬・漢方薬		
II-11	感染対策	○	SKR研修会、災害薬事専門薬剤師養成研修会
II-12	栄養管理	予定	フレイル研修会
II-13	セルフケア支援	○	健康サポート研修会B、スポーツファーマシスト研修会
II-14	文献評価、医薬品情報の活用		
II-15	統計データの理解と活用	○	研究倫理研修会
II-16	薬学的知見に基づく記録		
<b>III・疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能</b>			
III-1	循環器系	予定	薬薬連携研修会
III-2	消化器系		
III-3	内分泌系	○	会員研修会
III-4	泌尿器系	○	CKD研修会
III-5	生殖器系	○	緊急避妊薬研修会
III-6	呼吸器系	○	SKR研修会、禁煙支援薬剤師研修会
III-7	精神・神経系	○	うつ自殺防止研修会
III-8	皮膚・感覚器系	○	薬薬連携研修会
III-9	骨格・筋肉系	○	薬薬連携研修会
III-10	免疫系		
III-11	悪性腫瘍系	予定	シラバス抗がん剤関連研修会
III-12	感染症	○	SKR研修会



別添 3

学習内容の記録（JPALS 実践記録シート）

研修形式	研修会 地域活動	セミナー 社会奉仕	自己学習 その他	学術大会・学会	演習・体験
JPALS 研修会コード					
研修会課題名					
受講年月日	年 月 日				
場所					
研修会主催者					
研修担当委員会・部会					
研修内容(演題・演者)					
学習時間					
該当研修シラバス項目					
目標					
該当PS・No	到達目標				
<b>この研修のまとめ（メモ）</b>					
印象に残った言葉、内容					
今日初めて聞いたこと					
よく理解できたこと					
よく理解できなかったこと					
学習内容を 活用できそうな事例					
これから学習しようと 思ったこと					

☆☆☆ 帰宅したら [www.jpals.jp](http://www.jpals.jp) へログインして、この内容を入力しましょう ☆☆☆

開催日	曜日	名称	会場名	JPALSコード	プログラム	会員	非会員	薬学生	計
2020/10/4	日	第1回「医療倫理とこれからの薬剤師」	ニプロIMEP ニプロホール/ Web配信	25-2020-0018-101	第1部 ■講演1 10:00～10:30 「薬剤師のかかりつけ機能強化事業と薬剤師生涯学習」 講師：滋賀県薬剤師会 学術情報委員長 永井 智宏 ■講演2 10:30～11:30 「医療倫理とこれからの薬剤師」 講師：滋賀県薬剤師会 会長 大迫 芳孝 第2部 ■ライブトーク 11:30～12:00 テーマ「安楽死を法制化すべきか」 講師：滋賀県薬剤師会 学術情報委員会シラバスWG 大迫 翔平	132	3	2	137
2020/11/19	木	令和2年度調剤報酬適正化研修会	Web開催(ZOOM)	25-2020-0027-101	14:05～14:50 ■講演 改正薬機法について 講師 滋賀県健康医療福祉部 薬務課 薬事指導係 主査 太田 要 氏 14:50～15:10 ■講演 オンライン資格確認について 講師 滋賀県薬剤師会 医療保険委員会 副委員長 大森 徹也 15:10～15:55 ■講演 2020年調剤報酬改定のトピックスと適切な保険請求について 講師 滋賀県薬剤師会 医療保険委員会 委員長 村杉 紀明	230	0	0	230
2020/12/13	日	令和2年度学校薬剤師研修会	Web開催(ZOOM)	25-2020-0032-101	10:05～10:35 ■講演「滋賀県内の学校における新型コロナウイルス感染症防止対策に関する調査結果について」 講師 滋賀県薬剤師会 学校薬剤師部会 副部長 中本 貴士 10:35～11:55 ■講演「くすり教育 小学校編」 講師 ひわご薬剤師会 澤 章子 先生 ■講演「くすり教育 中学校編」 講師 東近江薬剤師会 上野 克彦 先生 ■講演「薬物乱用防止教育 小学校編」 講師 湖北薬剤師会 小倉 味穂 先生 ■講演「薬物乱用防止教育 中学校編」 講師 大津市薬剤師会 上西 佑弥 先生	88	0	0	88
2021/2/7	日	令和2年度医療安全研修会 第3回 シニアポッド報告研修会	Web開催(ZOOM)	25-2020-0050-101	■講演1 10:00～10:20 「医療安全管理指針とインシデント・アクシデント」 講師：滋賀県薬剤師会 薬事情報センター長 岸本 仁文 ■シニアポッド事例発表(各10分) 10:20～11:40 ①腎機能に応じた処方適正化事例 すこやか薬局 浜大津店 浦 ひふみ 先生 ②ミニリンゴの薬物相互作用回避事例 ふるさと薬局 芝原 隆之 先生 ③シニアポッド報告研修会 重複投与の回避事例 南草津ブラス薬局 大迫 翔平 先生 ④閉塞性角膜炎患者への抗コリン作用を有する睡眠薬投与を未然に防いだ一例 ブラス薬局 中川原 佳晃 先生 ⑤口腔カンジダに対し、ミコナゾールゲル経口用2%が処方され、疑義照会、処方変更となった症例 サン調剤薬局 辻井 晶 先生 ⑥シニアポッド報告 ふれあい薬局 鈴木 文子 先生 ⑦処方薬による嚥下障害が疑われる事例 大津ますだ薬局 古本 貴人 先生 ⑧シニアポッド報告 抗アレルギー薬の年齢別用量の相違について かも調剤薬局 濱本 幸広 先生 ■講演3 11:40～12:00 「薬局における医薬品・医療機器安全性情報報告制度とDEM事業について」 講師：滋賀県薬剤師会 学術情報委員長 永井 智宏	176	0	0	176

開催日	曜日	名称	会場名	JPALSコード	プログラム	会員	非会員	薬学生	計
2021/2/14	日	令和2年度保険薬局研修会	Web開催(ZOOM)	25-2020-0052-101	<p>プログラム</p> <p>13:10～13:25 講演「滋賀県薬剤師会における研修と生涯学習」 学術情報委員会 委員長 永井 智宏</p> <p>13:25～13:35 講演2「公認スポーツアーマーミンスト取得のお願い」 職能対策委員会 副委員長 岸本 仁文</p> <p>13:35～13:45 講演3「令和3年度から始まる薬剤師研修認定電子システム(PECS)について」 職能対策委員会 委員長 若森 文夫</p> <p>13:45～14:00 講演4「安否確認システムの役割と重要性」 災害(緊急)医療対策委員会 委員長 木戸 一博</p> <p>14:00～14:30 講演5「人権研修」働きやすい職場をめざして」 滋賀県人権センター人権啓発担当 樋口 孔司</p> <p>14:30～14:50 講演6「令和3年度介護報酬改定と在宅訪問の現状について」 介護福祉委員会 委員長 大西 延明</p> <p>14:50～14:55 休憩</p> <p>14:55～15:15 講演7「オンライン資格確認について」 医療保険委員会 副委員長 大森 徹也</p> <p>15:15～16:20 講演8「適切な保険請求について」 医療保険委員会 委員長 村杉 紀明</p>	247	1	0	248
2021/3/21	日	研究倫理研修会	Web開催(ZOOM)	25-2020-0059-101	<p>■講演1 テーマ:「薬剤師による学会発表・論文投稿の重要性和研究倫理」 講師:立命館大学薬学部 助教 平 大樹</p> <p>■講演2 テーマ:「滋賀県薬剤師会が実施する研究と研究計画書」 講師:滋賀県薬剤師会 営業局 柏川 紗希</p>	78	0	1	79
2021/6/6	日	会員研修会	Web開催(ZOOM)	25-2021-0009-101	<p>16:00～17:30</p> <p>■講演:「糖尿病治療患者への継続的フォローアップに必要なアプローチポイント」 講師:新潟薬科大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター センター長 教授 朝倉 俊成 氏</p>	139	5	0	144
2021/11/7	日	調剤報酬適正化研修会	Web開催(ZOOM)	25-2021-0029-101	<p>10:10～11:00</p> <p>■対人業務を中心とした適切な保険請求について</p> <p>・新型コロナウイルス感染症自宅療養患者に対する公費取扱・調剤 配送時の注意点</p> <p>・外来服薬支援料請求上の注意点と解説</p> <p>・重症心身障害児に対する調剤について連絡事項</p> <p>・近年県薬へ寄せられるクレームから見える薬局での対応について</p> <p>講師:滋賀県薬剤師会医療保険委員会委員長 村杉 紀明</p> <p>11:00～11:50</p> <p>■在宅業務に関する請求上の注意点</p> <p>・在宅関連で国保や薬剤師会に多く寄せられる質問を取り上げて 解説</p> <p>・麻薬持統皮下注の処方を受け付けの際の注意点について説明</p> <p>・単一建物診療患者(居住者)の敷え方について解説</p> <p>講師:滋賀県薬剤師会 介護福祉委員会委員長 大西 延明</p>	243	0	0	243
2021/11/7	日	令和3年度 オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会	Web開催(ZOOM)		<p>■オンライン診療の適切な実施に関する指針と緊急避妊薬の調剤について</p> <p>■オンライン診療に伴う緊急避妊薬上の留意点</p> <p>(1)緊急避妊薬</p> <p>(2)月経と月経異常および性周期のホルモン調節機序</p> <p>(3)OC全般と避妊法</p> <p>■オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について</p> <p>(1)薬局での調剤の手順について</p> <p>(2)患者対応等について</p>	83	0	0	83

開催日	曜日	名称	会場名	JPALSコード	プログラム	会員	非会員	薬学生	計
2021/11/23	火	令和3年度 滋賀県薬剤師会認定禁煙支援薬剤師研修会	Web開催(ZOOM)	25-2021-0036-101	プログラム 10:05～10:25 ■「禁煙支援薬剤師認定制度について」 講師:地域保健委員長 瀧川 政邦 10:25～10:55 ■「受動喫煙防止対策～現状と滋賀県の取組～」 講師:滋賀県健康医療福祉部健康寿命推進課 主幹 風間 昌美氏 10:55～11:35 ■「新型コロナウイルス感染症の現状と喫煙」 講師:おぐまファミリークリニック 小熊 哲也 先生 11:35～11:55 ■「グループワーク」 「禁煙成功事例・中断事例、禁煙困難事例を共有しよう」 進行:地域保健副委員長 高山 紗綾	75	0	0	75
2021/11/23	火	うつ自殺防止研修会	Web開催(ZOOM)	25-2021-0035-101	13:35～15:05 ■「滋賀県内における自殺の実態」 ■「うつ患者とのかかわりと薬剤師に期待すること」 講師:滋賀県立精神医療福祉センター 所長 滋賀県立精神医療センター 部長 滋賀県立小児保健医療センター 主任部長 滋賀県健康医療福祉部障害福祉課 主幹 哲士 先生	108	0	0	108
2022/1/16	日	滋賀県薬剤師会災害薬事専門薬剤師 養成研修会	草津市立市民交流	25-2021-0053-101	10:05～10:20 ■「滋賀県薬剤師会が設置する災害薬事専門薬剤師とは？」 講師:災害(緊急)医療対策委員会 委員長 木戸 一博 10:20～10:35 ■「滋賀県薬剤師会 災害対策本部アクションカード」 講師:災害(緊急)医療対策委員会 副委員長 垣本 修吾 10:35～11:35 ■「災害時の医薬品の流通・供給と管理」 講師:滋賀県健康医療福祉部薬務課 主査 太田 要氏 11:35～11:45 質疑応答	20	0	0	20
2022/1/22	土	(研修シラバス事業 第3回研修会)腎臓病を意識した薬学的ケアとは	Web開催(Zoom)	25-2021-0055-101	講演1 17:05～18:05 「末期腎不全を防ぐために ～薬局薬剤師の行動変容を促す Long term eGFR plot～」 講師:地方独立行政法人 市立大津市民病院 内科診療部長(腎臓内科部門)兼 血液浄化部診療部長 中澤 純 先生 講演2 18:05～18:35 「Long term eGFR plotの薬局での実際の運用事例の紹介」 講師:薬剤師のかりつけ機能強化のための研修シラバスWG 中島 玄行	106	0	0	106
2022/1/23	日	令和3年度スポーツファーマシスト研修会	Web開催(Zoom)	25-2021-0052-101	13:05～13:35 ■「令和3年度スポーツファーマシスト研修会」 講師:(一社)滋賀県薬剤師会 薬事情報センター 滋賀県競技力向上対策本部 医・科学サポートスポーツファーマシスト部門 岸本 仁文 13:35～14:35 ■「アンチ・ドーピング」 講師:滋賀県競技力向上医・科学サポート委員長 (一財)近畿健康管理センター 理事長 木村 隆 先生 14:35～14:45 質疑応答	89	0	0	89

別添 4

開催日	曜日	名称	会場名	JPALSコード	プログラム	会員	非会員	薬学生	計
2022/2/10	木	令和3年度医療安全研修会(ブレアポイント報告研修会)	Web開催(Zoom)	25-2021-0056-101	<p>プログラム</p> <p>■講演1 18:35～18:45 「薬薬連携の必要性について」 講師：滋賀県薬剤師会 学術情報委員会 委員長 永井 智宏</p> <p>■講演2 18:45～20:15 ブレアポイント事例発表(15分×6名=90分) 演題1「新規定秘薬の適応症について」 演者：いちえ薬局 中小森店 大井 秀人 先生 演者：柳及愛良世調剤薬局 杉江陽子 先生 演題2「患者家族の何気ない一言から処方変更に至った一例」 演者：滋賀県薬剤師会 会営薬局 十亀裕子 先生 演題3「腎機能低下を把握している高齢患者への対応」 演者：市立大津市民病院 薬剤部 小山加奈世 先生 演題4「市立大津市民病院におけるブレアポイントの現状と実例」 講師：市立大津市民病院 薬剤部 小山加奈世 先生 講演5「当院におけるブレアポイント事例」 演者：恩賜財団済生会滋賀県病院 薬剤部 小山華穂 先生 講演6「当院におけるブレアポイント報告」 演者：彦根市立病院薬剤部 河崎一久 先生</p>	88	80	0	168
2022/2/13	日	(研修シラバス事業 第4回研修会) 研究倫理研修会	Web開催(Zoom)	25-2021-0057-101	<p>■講演1 10:05～10:50 「多剤併用患者におけるTriple Whammyの検出を目的とした併用薬確認方法の検証」の実施について 講師：薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバスWG 柏川 紗希</p> <p>■講演2 10:50～11:35 「研究倫理の重要性と倫理審査」について 講師：(一社)滋賀県薬剤師会 専務理事 岡本 茂胤</p>	75	0	0	75

## ～集え！次世代を生きる薬剤師！～

# 滋賀県薬剤師会主導の臨床研究への参加薬剤師募集案内

滋賀県薬剤師会 学術情報委員会 シラバスワーキンググループ代表 永井智宏

医薬分業の進展等により、薬剤師及び薬局を取り巻く環境は大きく変化しており、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上が求められています。

「服薬フォローアップ」義務化により、より深く患者の服薬情報の一元的・継続的管理が求められ、また、認定薬剤師のうち、いくつかの認定取得の要件には、「学会発表」や「論文投稿」の実績が求められ、「臨床研究能力」が問われています。

そこで、滋賀県薬剤師会では、会員の皆様に、「服薬フォローアップ」を実際に体験・実施していただき、「学会発表・論文投稿」ができる薬剤師の育成を目指して、これらの機能・能力の向上を目的とした滋賀県薬剤師会主導の臨床研究を開始いたします。以下ご確認いただき、参加を希望される会員（個人からの参加でOKです）はGoogle フォームに入力をお願い申し上げます。

☆臨床研究名：「多剤併用患者における Triple Whammy の検出を目的とした併用薬確認方法の検証」

### ☆研究内容

利尿剤と ACE-I or ARB の 2 剤併用している患者の隠れ併用薬を確認する方法として、「電話」か「次回窓口」のどちらの確認方法が有効かを検証します。

### ☆実施していただくこと

- ・利尿剤と ACE-I or ARB の 2 剤併用している患者に隠れ併用薬（市販薬など）がないかを確認
- ・確認方法は「電話による服薬フォロー」群と「次回窓口での確認」群に分けて実施
- ・確認事項を滋賀県薬剤師会に報告

※どちらの群になるかは、後日ご連絡させていただきます。

※無作為のため、どちらの群かの希望は受けかねます。ご理解の上、ご応募ください。



### ☆メリット

- ・臨床研究の組み立てから学会発表や論文投稿までの流れをすべてお示しします
- ・具体的な服薬フォロー条件を設定して実践できる
- ・隠れ併用薬に NSAID s があれば、腎機能低下の恐れがあり、医師への情報提供や処方提案など、より深く患者に介入できる

☆参加希望 Google フォーム URL : <https://forms.gle/NacsEV1now9GE2B77>



## 会員の皆様、奮ってご参加ください！

## 1. 目的

日本薬剤師会は、「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」のなかで、平成 30 年度に「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」（以下「研修シラバス」）を作成した。これは、都道府県薬剤師会が各々に計画・実施している研修事業に研修シラバスを組み入れ、研修内容の指標として活用することで、薬剤師の知識・技能の取得と、能力の維持向上を図り、地域医療の向上につなげることを目的としている。

熊本県薬剤師会（以下「県薬」）は、研修シラバスに基づく研修の実施を推進するため、令和元年度に、平成 30 年度及び令和元年度に実施した研修内容の調査分析を行い、問題点や課題となる点を整理し、研修実施計画を作成した。令和 2 年度は、引き続き研修実施内容の分析を続けながら、研修を担当する県薬の各委員会が連携して全ての研修項目について実施できるよう研修会のテーマを選ぶとともに、支部が研修を実施する際に、講師の選定の一助となるよう講師バンクを設立した。

令和 3 年度は、前年度までの研修の実施状況を取りまとめるとともに、支部が主催する研修を支援するため、講師バンクを運営することとした。

## 2. 実施事項及び実施方法

### (1) 研修実施状況調査

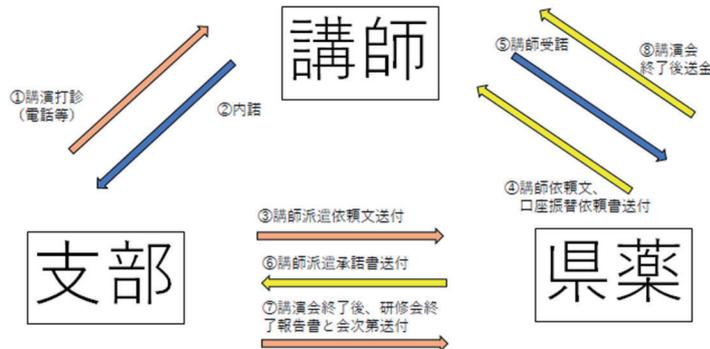
調査の対象は、県薬が主催する研修会及び研修センターへ研修会の申請があった支部主催の研修会とした。研修項目番号は、平成 30 年度と令和元年度に実施した研修は、研修会のテーマと演題等から該当するものを選んだ。令和 2 年度と 3 年度の研修は、県薬の研修を担当する委員会委員長または支部長、支部研修担当者が研修項目番号を選定した。

### (2) 講師バンクの運営等

講師バンクは、支部が研修を計画する際に幅広く研修シラバス項目を選択できるように、各項目に関して知識・技量のある薬剤師や有識者を募り、講師として登録し、支部等からの要請により研修会に派遣する制度である。

講師バンクの運営は県薬の生涯学習委員会が担当し、講師の派遣する他、生涯学習支部担当者を通じて支部への研修シラバスに基づく研修の普及を進める。講師派遣の手続きは、図-1「熊本県薬剤師会講師バンク構図」による。

図-1 熊本県薬剤師会講師バンク構図



### (3) 広報

講師バンクを支部に積極的に活用してもらえるよう、県薬の薬事・広報委員会は会報等を通じて広報する。

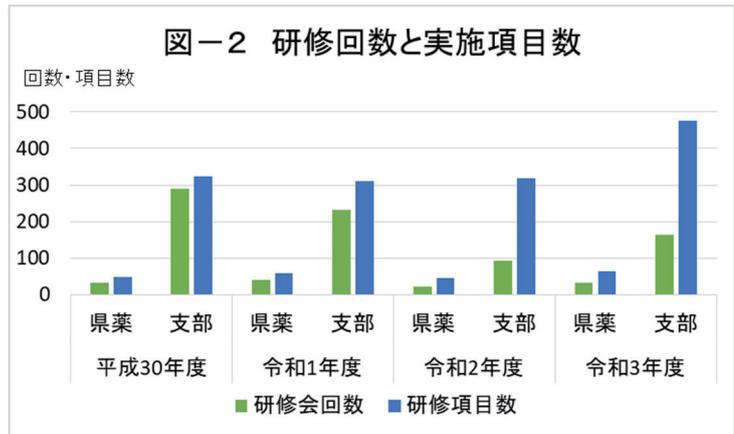
### 3. 実施状況と成果

#### (1) 研修実施内容調査

平成30年度から令和3年度において県薬及び支部で実施した研修会の回数と研修シラバスに基づく研修項目数を図-2に示した。

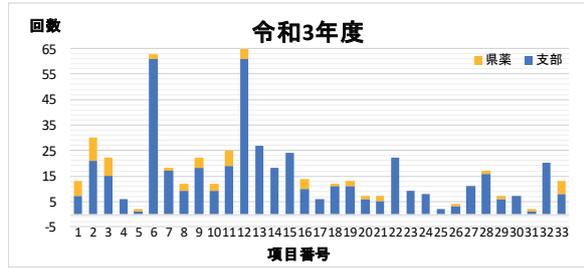
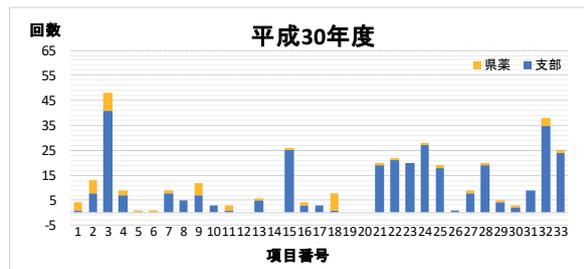
令和元年度からは新型コロナウイルス感染症が拡大し、集合研修の実施が困難であったが、Web研修の導入が進み、研修実施回数は回復しつつある。また、1回の研修で複数の項目を実施することで研修内容の幅を広げようとする状況も見られる。

平成30年度から令和3年度までの研修項目毎の研修実施回数を図-3に表した。令和2年度から研修シラバスの意義を踏まえて県薬で計画し、支部に周知をした上で研修を実施したため、研修項目の偏りが少なくなり、県内ですべての項目についての研修を実施できた。



研修項目	項目番号
<b>I 倫理・社会資源の活用</b>	—
1. かかりつけ薬剤師の倫理	1
2. 患者安全	2
3. 医療・福祉の仕組み	3
4. カウンセリングスキル	4
5. エビデンスの創出	5
<b>II 医療薬学的知識と技能</b>	—
1. 薬理学	6
2. 製剤学	7
3. 薬物動態学・薬力学	8
4. 小児、高齢者、妊婦・授乳婦	9
5. 検査値の把握	10
6. 薬学的観察・評価	11
7. 薬物療法の提案と実践	12
8. 副作用対策	13
9. ハイリスク薬	14
10. 生薬・漢方薬	15
11. 感染対策	16
12. 栄養管理	17
13. セルフケア支援	18
14. 文献評価、医薬品情報の活用	19
15. 統計データの理解と活用	20
16. 薬学的知見に基づく記録	21
<b>III 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能</b>	—
1. 循環器系	22
2. 消化器系	23
3. 内分泌系	24
4. 泌尿器系	25
5. 生殖器系	26
6. 呼吸器系	27
7. 精神・神経系	28
8. 皮膚・感覚器系	29
9. 骨格・筋肉系	30
10. 免疫系	31
11. 悪性腫瘍	32
12. 感染症	33

図-3 研修項目毎の研修回数



令和3年度は、Web研修の活用で、県薬が実施する研修会実施回数が新型コロナウイルス感染症拡大前に戻り、支部主催の研修回数も大幅に増加した。

また、令和2年度に日本薬剤師会が研修シラバスを改訂し、研修項目が追加されたことから、令和3年度に県薬主催で開催した研修内容を、改訂された項目に基づいて分類した結果を表-1に示した。支部については平成4年度から新項目で分類することとしている。

表-1 項目ごとの研修回数(令和3年度県薬主催分)  
「令和2年度改訂後の項目で分類」

研修項目	回数	研修項目	回数
<b>I 倫理・社会資源の活用</b>	19	12.栄養管理	0
1.かかりつけ薬剤師の倫理	6	20.セルフケア支援	1
2.患者安全	9	21.文献評価、医薬品情報の活用	2
3.医療・福祉の仕組み	7	22.統計データの理解と活用	1
4.カウンセリングスキル	0	23.薬学的知見に基づく記録	2
5.エビデンスの創出	1	24.薬剤使用期間中のフォローアップ	5
<b>II 医療薬学的知識と技能</b>		<b>III 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能</b>	
6.1.薬理学	2	25.1.循環器系	0
7.2.製剤学	1	26.2.消化器系	0
8.3.薬物動態学・薬力学	3	27.3.内分泌系	0
9.4-1.小児	1	28.4.泌尿器系	1
10.4-2.高齢者	2	29.5.生殖器系	1
11.4-3.妊娠前および妊娠～授乳期	1	30.6.呼吸器系	0
12.5.検査値の把握	3	31.7.精神・神経系	1
13.6.薬学的観察・評価	6	32.8.皮膚・感覚器系	1
14.7.薬物療法の提案と実践	4	33.9.骨格・筋肉系	0
15.8.副作用対策	0	34.10.免疫系	1
16.9.ハイリスク薬	0	35.11.悪性腫瘍	0
17.10.生薬・漢方薬	0	36.12.感染症	5
18.11.感染対策	4	37.13.小児期に多く見られる疾患	1

## (2) 講師バンクの企画と運用

令和3年度から講師バンク事業を開始するにあたり、令和2年6月に講師バンクの設立・運営方法の検討と講師の選任を開始し、講師バンクの設置と運営を盛り込んだ令和3年度事業計画を作成した。これに基づき、令和3年4月1日に講師バンクを設立し運用を開始し、企画・運営を研修シラバス事業の主担当である県薬の生涯学習委員会が、会員への周知を薬事・広報委員会が担った。

### ① 生涯学習委員会

令和3年度は、委員会において事業強化のため講師の追加承認を行うとともに講師推薦基準の確認及び講師バンクの運営方法と支部への周知方法の検討を行った。登録講師は延べ72名で項目別の人数は表-2のとおり。

表-2 講師バンク 登録講師数

研修項目	人数	研修項目	人数
<b>I 倫理・社会資源の活用</b>		12. 栄養管理	2
1. かかりつけ薬剤師の倫理	2	13. セルフケア支援	5
2. 患者安全	3	14. 文献評価、医薬品情報の活用	0
3. 医療・福祉の仕組み	1	15. 統計データの理解と活用	1
4. カウンセリングスキル	1	16. 薬学的知見に基づく記録	1
5. エビデンスの創出	2	<b>III 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能</b>	
<b>II 医療薬学的知識と技能</b>		1. 循環器系	1
1. 薬理学	2	2. 消化器系	3
2. 製剤学	2	3. 内分泌系	3
3. 薬物動態学・薬力学	3	4. 泌尿器系	2
4. 小児、高齢者、妊婦・授乳婦	3	5. 生殖器系	1
5. 検査値の把握	2	6. 呼吸器系	2
6. 薬学的観察・評価	2	7. 精神・神経系	3
7. 薬物療法の提案と実践	2	8. 皮膚・感覚器系	2
8. 副作用対策	1	9. 骨格・筋肉系	2
9. ハイリスク薬	1	10. 免疫系	1
10. 生薬・漢方薬	3	11. 悪性腫瘍	9
11. 感染対策	1	12. 感染症	8

② 薬事広報委員会

熊薬会報令和3年3月号に講師バンクの案内と講師を掲載した。5月に開催された委員会で、講師バンク登録講師がどのような分野に精通しているか知ることによって講師バンクの活用を推進するため、登録講師が執筆する「交流のひろば」を掲載することを決め、9月号から開始し、令和3年度に5回掲載した（表-3）。

年	号	内容	執筆者
令和3年	9月号	爪白癬と治療薬	調剤薬局ケンコー堂シティモール前店 高田 良子 先生
	10月号	悪性腫瘍に対する治療	熊本市立熊本市市民病院薬剤部 山室 藍子 先生
	11月号	腎機能低下患者に対する医薬品適正使用に関する研究	熊本大学薬学部・大学院生命科学研究所 臨床薬理学分野 准教授 近藤 悠希 先生
	12月号	喘息治療と薬剤師による吸入指導法	GrowUp株式会社 専務取締役 えいせい堂薬局所属 塩塚 早紀子 先生
令和4年	2月号	女性の健康支援	メロディー薬局 三輪 紀代子 先生

研修シラバス及び講師バンクに関する会議等の一覧表を表-4に示した。担当した生涯学習委員会及び薬事広報委員会の他に、生涯学習支部担当者会議を開催、研修シラバスに基づく研修会実施状況について説明し、支部への周知と講師バンクの活用を要請した。また、支部連絡協議会において支部長への周知と協力要請を行った。

表-4 研修シラバスに関する会議等

年度	会議名	開催日	概要
令和元年度	第5回生涯学習委員会	R1. 12. 9	支部担当者会議における研修シラバス関連事項について
	第6回生涯学習委員会	R2. 1. 22	令和2年度事業計画における研修シラバス関連事項について
	生涯学習支部担当者会議	R2. 3. 6	研修シラバスに基づく県薬と各支部における研修会の実施状況、令和2年度事業計画の説明
令和2年度	第2回生涯学習委員会	R2. 6. 30	研修シラバスに基づく研修会実施について 講師バンクの設立について
	熊薬会報8月号	R2. 8. 1	巻頭言「変化に適應する」（研修シラバスの紹介）
	第3回生涯学習委員会	R2. 8. 12	講師バンクの設立及び講師の推薦について 研修シラバスの各項目ごとの講師の推薦について
	第4回生涯学習委員会	R2. 10. 14	講師バンクの講師推薦承認
	第5回生涯学習委員会	R2. 11. 9	講師バンクの講師について確認
	第6回生涯学習委員会	R2. 12. 18	令和3年度事業計画における講師バンクの管理と利用促進について
	熊薬会報3月号	R3. 3. 1	(公社)熊本県薬剤師会 講師バンクについて (講師バンク設立の周知 講師掲載)
	生涯学習支部担当者会議	R3. 3. 24	研修シラバスに基づく県薬と各支部における研修会の実施状況調査報告と研修実施の推進について 研修シラバス項目毎の講師名一覧確認
	令和3年度	第1回生涯学習委員会	R3. 4. 20
第2回生涯学習委員会		R3. 5. 26	講師バンクの講師推薦基準について
第3回薬事広報委員会		R3. 6. 9	講師バンク登録者による専門分野に関する紹介記事「交流のひろば」掲載について
第3回生涯学習委員会		R3. 7. 28	講師バンク登録情報について (講師情報管理におけるGoogleフォームの活用と会報掲載) 講師バンクの運用規程について
熊薬会報9月号		R3. 9. 1	新コーナー「交流のひろば」のご紹介
第4回生涯学習委員会		R3. 9. 29	講師バンク登録情報について
第5回生涯学習委員会		R3. 12. 1	講師バンク、講師略歴の会報掲載について
第6回生涯学習委員会		R4. 2. 1	講師バンク会報掲載内容確認
支部連絡協議会		R4. 2. 26	研修シラバスに基づく研修会実施について (令和2年度における改訂含む) 講師バンクの活用について
熊薬会報3月号		R6. 3. 1	(公社)熊本県薬剤師会 講師バンクについて (研修シラバス及び講師バンクの周知 講師掲載)
生涯学習支部担当者会議		R4. 3. 4	研修シラバスに基づく県薬と各支部における研修会の実施状況 講師バンクの活用実績 令和4年度の事業計画の説明

これらの活動の結果、令和3年度の講師バンクから支部研修会への講師派遣は2支部から計8回であった(図-5)。講師バンクについては、平成3年度の前半は体制確保で、後半から講師バンクの周知活動であったため、次年度の支部での活用が期待される。

図-5 講師バンク講師派遣実績(令和3年度)

No.	支部名	研修会名	日時	講演依頼時間	講師
1	熊本市支部	第71回薬剤師のためのスキルアップ講座(WEB研修会)	令和3年7月21日(水) 19:30~21:30	19:40~21:10	せいら調剤薬局 廣田 有紀 先生
2	熊本市支部	第72回薬剤師のためのスキルアップ講座(集合研修会)	令和3年8月24日(火) 19:30~21:30	19:40~21:10	富田薬品(株) 学術情報室 室長 池川 登紀子 先生
3	菊池支部	菊池地区研修会 (無菌調剤研修会)	令和3年7月20日(月) 19:30~21:00	19:30~21:00	朝日野総合病院 薬剤部 係長 續 政哉 先生
4	菊池支部	菊池地区研修会 (無菌調剤研修会)	令和3年8月24日(月) 19:30~21:00	19:30~21:00	朝日野総合病院 薬剤部 係長 續 政哉 先生
5	菊池支部	菊池地区研修会 (無菌調剤研修会)	令和3年12月21日(火) 19:30~21:00	19:30~21:00	朝日野総合病院 薬剤部 係長 續 政哉 先生
6	菊池支部	菊池地区研修会 (無菌調剤研修会)	令和4年1月18日(火) 19:30~21:00	19:30~21:00	朝日野総合病院 薬剤部 係長 續 政哉 先生
7	菊池支部	菊池地区研修会 (無菌調剤研修会)	令和4年2月15日(火) 19:30~21:00	19:30~21:00	朝日野総合病院 薬剤部 係長 續 政哉 先生
8	菊池支部	菊池地区研修会 (無菌調剤研修会)	令和4年3月15日(火) 19:00~21:00	19:00~21:00	朝日野総合病院 薬剤部 係長 續 政哉 先生

## 5. 今後の課題

令和3年度までの県薬の取組みで、研修の提供体制の構築が進み、研修シラバスの意義について会員の理解も得られつつあると考えられる。

令和4年度は、会員がすべての研修項目を受講する機会が得られるよう、これまでの研修内容の調査結果を基に支部との連携の強化を図る。その際に、Web研修の実施方法と集合研修との組み合わせを考慮しながら改善する。

また、実施した研修がどの研修項目に該当するかの判断基準に違いがあると、必要な研修を受講できたか不明確にあることから、判断基準の標準化も検討する必要があると考えられる。

講師バンクについては活用をさらに進めるために、周知方法や講師派遣申請手続き等を見直す必要がある。熊薬会報に掲載した「交流のひろば」は、記事としても充実した内容であったため、過去の掲載分も含めた活用を検討する。

薬局ビジョン実現に向けて薬剤師は、かかりつけ薬剤師としての対人業務に関する能力を向上させるため、スペシャリストとしてのみでなくジェネラリストとしての知識、技術が求められている。薬剤師会として薬剤師に必要な研修の機会を提供する体制を作り、実践することが研修シラバスの目的であり、今後も積極的に取り組む必要がある。

## (公社)熊本県薬剤師会 講師バンクについて

公益社団法人 熊本県薬剤師会 会長 富 永 孝 治

平成30年度に日本薬剤師会にて、薬剤師が対人業務においてその専門性を発揮し、かかりつけ薬剤師としての役割を果たすために「33項目からなる薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」が作成されました。

このことを受けて、本会の生涯学習委員会ではこの度、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上を目的とした研修会を熊本県全域で実施できるよう、各専門分野に精通されている先生方を登録する講師バンクを設立いたしました。研修会を企画される際の一助になれば幸甚に存じます。登録講師一覧につきましては別紙をご確認くださいようお願いいたします。

講師バンクを利用される際には講師へ事前に内諾を得た後、各支部の支部長より講師派遣依頼文を本会宛てご提出くださいますようお願いいたします。研修会終了後、本会より講師へ講師謝金、旅費日当をお支払いいたします。

なお、予算の範囲内での実施であることから、講師派遣依頼状況によっては各支部において依頼回数に制限を設ける可能性もございますことを予めご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

※登録者本人の同意が得られた講師のみ熊薬会報に掲載しております。

### 別添資料

- (1) 熊本県薬剤師会講師バンク構図
- (2) 講師バンク 登録講師一覧

◎「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」の内容は下記よりご確認ください。

URL : <https://www.nichiyaku.or.jp/assets/uploads/activities/vision-ph-syllabus2.pdf>

(掲載場所 : 日本薬剤師会ホームページ)

日本薬剤師会の活動 > 調査研究・報告書等 >

薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業)



(公社)熊本県薬剤師会 生涯学習委員会

担当副会長 : 藤井 憲一郎

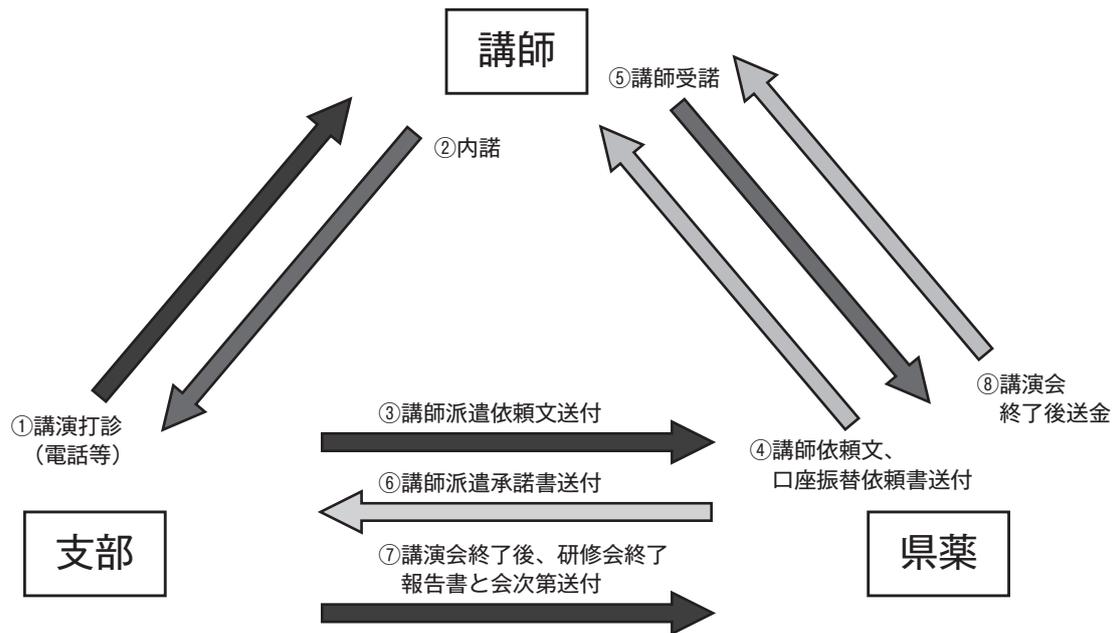
担当常務理事 / 委員長 : 星野 輝彦

事務局 : 斉藤

TEL 096-370-5800 FAX 096-370-5888

E-mail : [info@kumayaku.or.jp](mailto:info@kumayaku.or.jp)

# 熊本県薬剤師会講師バンク構図



## (公社)熊本県薬剤師会 講師バンク 登録講師一覧

敬称略

薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス項目	所属先	部署	役職	氏名
<b>I 倫理・社会資源の活用</b>				
1 1. かかりつけ薬剤師の倫理	良寛堂薬局			高濱 寛
1 1. かかりつけ薬剤師の倫理	ハッピー薬局 岱明店			星野 輝彦
2 2. 患者安全	港町調剤薬局			寺元 栄一
2 2. 患者安全	熊本大学病院	薬剤部	副薬剤部長	政 賢悟
2 2. 患者安全	熊本市立熊本市市民病院	薬剤部	薬剤部長	山室 路子
3 3. 医療・福祉の仕組み	(株)オルセー メリー薬局		代表取締役/管理薬剤師	三淵 博史
4 4. カウンセリングスキル	本庄内科病院	薬局	非常勤	原田 則代
5 5. エビデンスの創出	崇城大学 薬学部	医療薬学研究室	教授	門脇 大介
5 5. エビデンスの創出	熊本大学大学院 生命科学研究部・薬学部	薬物治療設計学分野	准教授	近藤 悠希
<b>II 医療薬学的知識と技能</b>				
6 1. 薬理学	熊本大学大学院 生命科学研究部 (薬学系)	薬物活性学分野	教授	香月 博志
6 1. 薬理学	崇城大学	薬学部	教授	徳富 直史
7 2. 製剤学	つばめ薬局			久保田 忍
7 2. 製剤学	熊本大学	大学院先導機構	准教授	東 大志
8 3. 薬物動態学・薬力学	崇城大学 薬学部	臨床薬学研究室	教授	宮村 重幸
8 3. 薬物動態学・薬力学	崇城大学	薬学部	教授	山崎 啓之
8 3. 薬物動態学・薬力学	熊本大学大学院 生命科学研究部	薬剤学分野	准教授	渡邊 博志
9 4. 小児、高齢者、妊婦・授乳婦	メロディー薬局			三輪紀代子
9 4. 小児、高齢者、妊婦・授乳婦 (小児)	(有)三進堂薬局		管理薬剤師	佐藤 直哉
9 4. 小児、高齢者、妊婦・授乳婦 (高齢者)	くまもと温石病院	薬剤科	薬局長	森 直樹
10 5. 検査値の把握	熊本大学大学院 生命科学研究部	構造機能解析学講座	教授	大林 光念
10 5. 検査値の把握	済生会熊本病院	薬剤部	薬剤管理指導室長	柴田 啓智
11 6. 薬学的観察・評価	済生会熊本病院	薬剤部	薬剤管理指導室長	柴田 啓智
11 6. 薬学的観察・評価	2号橋 くらしの薬局		管理薬剤師	本田 卓輝
12 7. 薬物療法の提案と実践	熊本大学大学院	生命科学研究部 (薬学系) 薬物治療設計学講座	教授	猿渡 淳二
12 7. 薬物療法の提案と実践	済生会熊本病院	薬剤部	薬剤管理指導室長	柴田 啓智
13 8. 副作用対策	花園ファルマシア 新市街店		管理薬剤師	中村 繁良
14 9. ハイリスク薬	(株)ファーマグアイワ 帯山8丁目薬局	調剤事業部	副部長	橋本 広大
15 10. 生薬・漢方薬	高橋薬局エルア			高橋 良治

15	10. 生薬・漢方薬	良寛堂薬局			高濱 寛
15	10. 生薬・漢方薬	熊本大学 薬学部	HIGO プログラム		デブコタ ハリ (Hari Devkota)
16	11. 感染対策	熊本市立熊本市市民病院	薬剤部/感染対策室	主査	喜多岡洋樹
17	12. 栄養管理	JCHO 熊本総合病院	薬剤部	主任	大岡建太郎
17	12. 栄養管理	ことう薬局			山口 美信
18	13. セルフケア支援	富田薬品(株)	学術情報室	室長	池川登紀子
18	13. セルフケア支援	(株)ファーマダイワ 阿蘇りんどう薬局	企画推進部	課長	下原 修治
18	13. セルフケア支援	熊本大学	大学院生命科学研究部 (薬学系)	准教授	首藤 剛
18	13. セルフケア支援	西本真生堂薬局 御代志店			西本 光宏
18	13. セルフケア支援	崇城大学	薬学部	教授	横溝 和美
20	15. 統計データの理解と活用	熊本大学大学院 生命科学研究部・薬学部	薬物治療設計学分野	准教授	近藤 悠希
21	16. 薬学的知見に基づく記録	(有)アップル薬局 熊本事務所	本部	代表取締役	山本雄一郎
<b>Ⅲ 疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能</b>					
22	1. 循環器系	済生会熊本病院	薬剤部	薬剤管理指導室長	柴田 啓智
23	2. 消化器系 (炎症性腸疾患関連)	大腸肛門病センター 高野病院	薬局	副主任	寺本 拓哉
23	2. 消化器系	(株)ファーマダイワ 帯山8丁目薬局	調剤事業部	副部長	橋本 広大
23	2. 消化器系 (便秘、過敏性腸症候群関連)	大腸肛門病センター 高野病院	薬局	次長	丸田佐知子
24	3. 内分泌系	陣内病院			西村 博之
24	3. 内分泌系	(株)九品寺ファーマ せいらい調剤薬局		管理薬剤師	廣田 有紀
24	3. 内分泌系	医療法人社団 陣内会 陣内病院	薬剤部	薬剤部長	吉田 陽
25	4. 泌尿器系	オレンジ薬局 おあま店			高田 良子
25	4. 泌尿器系	阿蘇中央薬局			長谷川浩三
26	5. 生殖器系	熊本大学病院	薬剤部		木永 舞
27	6. 呼吸器系	八代薬剤師会センター薬局		薬局長	佐藤良太郎
27	6. 呼吸器系	Grow Up (株) えいせい堂薬局		専務取締役	塩塚早紀子
28	7. 精神・神経系	医療法人 天草病院	薬局	主任	青柳浩太郎
28	7. 精神・神経系	熊本大学病院	薬剤部	准教授・副部長	城野 博史
28	7. 精神・神経系 PS: 2-2-62~2-2-69	崇城大学	薬学部薬物治療学	教授	内田 友二
28	7. 精神・神経系	くまもと青明病院	診療部	薬局長	村田 司
29	8. 皮膚・感覚器系	JCHO 熊本総合病院	薬剤部	主任	大岡建太郎
29	8. 皮膚・感覚器系	オレンジ薬局 おあま店			高田 良子
30	9. 骨格・筋肉系	熊本セントラル病院	薬剤科	リーダー	北窓 正孝
30	9. 骨格・筋肉系	熊本機能病院	薬剤部	副主任	森崎 崇文
31	10. 免疫系	崇城大学	薬学部	講師	平田憲史郎
32	11. 悪性腫瘍	JCHO 熊本総合病院	薬剤部	主任	上淵 未来
32	11. 悪性腫瘍	熊本大学病院	薬剤部	准教授・副部長	城野 博史
32	11. 悪性腫瘍	くまもと県北病院	薬剤部	主任	向井光一朗
32	11. 悪性腫瘍 (緩和)	つばめ薬局			久保田 忍
32	11. 悪性腫瘍 (緩和)	熊本大学病院	薬剤部		田中 順子
32	11. 悪性腫瘍 (緩和)	(株)ファーマダイワ 花みずき薬局		地域連携部部長	長峰慎之介
32	11. 悪性腫瘍 (緩和)	JCHO 熊本総合病院	薬剤部	主任	濱田 政司
32	11. 悪性腫瘍 (緩和)	大腸肛門病センター 高野病院	薬局	次長	丸田佐知子
32	11. 悪性腫瘍	熊本市立熊本市市民病院	薬剤部	薬剤部長	山室 露子
33	12. 感染症	熊本大学病院	薬剤部・感染制御部		尾田 一貴
33	12. 感染症	熊本市立熊本市市民病院	薬剤部/感染対策室	主査	喜多岡洋樹
33	12. 感染症	社会医療法人 潤心会 熊本セントラル病院	薬剤科	主任	栗崎 貴啓
33	12. 感染症	社会医療法人 寿量会 熊本機能病院	薬剤部		下原 朋美
33	12. 感染症	朝日野総合病院	薬剤部	副薬剤科長	續 政哉
33	12. 感染症	(有)ティーアール のぞみ薬局			西 竜二郎
33	12. 感染症	JCHO 天草中央総合病院	薬剤部		橋本 佑太
33	12. 感染症	医療法人 田中会 武蔵ヶ丘病院	薬剤部	部長	畑本 慶太

講師の講演可能なテーマ等につきましては、下記ご参照ください。

<https://forms.gle/Uk4pee84X58sXuGT7>



